

『天に栄光、地に平和』（ルカの福音書 2章 8-14節）2020.12.20.

<はじめに> 子どもの賛美歌に♪「サンタクロースのおじいさん よい子を訪ねてその旅」とあります。クリスマスプレゼントは、よい子へのご褒美なのでしょうか。

I 救い主が生まれた！

①クリスマスおめでとう

クリスマスが救い主イエスの誕生を祝う時であることは大方の周知です。しかし生まれた本人に祝意を伝えるだけでなく、「クリスマスおめでとう」と互いに言うのはどうしてでしょう。私たちお互いも喜び祝う意味があるから、この言葉を交わすはずです。

②大きな喜び(10)

御使いが羊飼いに伝えたメッセージは「救い主がお生まれになった」(11)です。それが「大きな喜び」(10)に繋がると言うのです。問題課題に満ちる人の世に、解決と救いをもたらされるなら、大きな喜びが沸き起こります。今、私が求める救いとは何でしょうか。

③いのちの発露(11)

救い主はみどりごとして現れました。そこに表されているのは力ではなく、いのちです。いのちには希望があり、やがて成長し、状況さえも一変させる力があります。支配する力ではなく、内から変革するいのちが、この民全体に与えられたことを喜び祝う時です。

II 栄光が神に

①ベツレヘムの羊飼いの

この御告げを聞いた羊飼いたちは、神殿での祭儀用の子羊を飼っていたという説もあります。人が罪を犯した代償として、神に赦しを乞うために律法は子羊をいけにえに要求していたからです。人の罪と直結する彼らの生業に、彼らはどんな思いを抱いていたでしょう。

②神の子羊

生まれたみどりごが成人した時、バプテスマのヨハネは彼を「世の罪を取り除く神の子羊」(ヨハネ 1:29)と呼びました。「しかし今、キリストはただ一度だけ、世々の終わりに、ご自分をいけにえとして罪を取り除くために現れてくださいました。」(ヘブル 9:26)

③褒美ではなくプレゼント

このみどりごとして現れた救い主こそ、すべての人に与えられた神からのプレゼントです。人の心に住みつく罪は、世の諸問題の根底に横たわる永遠の苦悩です。そこから人を救い出そうと神自ら動かれました。だから「栄光が神に」(14)と御使いたちが賛美しました。

III 地の上で平和が

①平和を求めて

「平和」と聞くと、国際関係や対人関係を思い浮かべる方が多いでしょう。互いを認め合うことが声高に叫ばれる昨今ですが、それとともに相手より上に立とうとする動きも止むことはありません。どうすれば平和が訪れるのか、人類は未だ答えを模索中です。

②御使いの賛美(14)

御使いは、まず神に栄光を返しています。賛美は神を高め、すべてに勝る御方として崇めます。人は神の前にへりくだるのみです。自分の罪を抱え、どうすることもできない無力な者だからです。この神の前では、人が誇り、上に立つことなどできません。

③みこころにかなう人々に

神があがめられるところに平和が訪れます。「みこころにかなう人々」とはどんな人でしょうか。いい人、正しい人、頑張った人、親切な人でしょうか。神の御前にありのまま進み出て、自らの弱さ・乏しさ・罪深さを認めつつ、尚も神に期待する人は甘えているのでしょうか。

<おわりに> クリスマスはすべての人に与えられ、訪れています。しかし、クリスマスに生まれた救い主キリストが下さるプレゼントを受け取っているのでしょうか。それは届き得ない高い所にあるのではありません。手の届くすぐそこにあります。クリスマスを受け取りましょう。(H.M.)